

令和元年度 第3回伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会 会議録

【日 時】 令和2年2月14日（金）9時30分～11時5分

【場 所】 修善寺生きいきプラザ 1階 第1・2会議室

【出席者】 26名

(敬称略)

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市 総合計画審議委員	植松 真由美	副会長
伊豆市 観光協会長	長谷川 卓	委員
県立伊豆総合高等学校 校長	深澤 富士夫	委員
伊豆市 区長会長	萩坂 尚巳	委員
NPO サプライズ 事務局長	野田 康代	委員
伊豆市 主任児童委員	内田 直美	委員
伊豆市子育てママスタッフ	工藤 絹衣	委員
静岡銀行 修善寺支店長	鈴木 秀昭	委員
三島信用金庫 修善寺支店 次長（※代理出席）	土屋 光平	委員
三島労働基準監督署 副署長（※代理出席）	高橋 智裕	委員
三島公共職業安定所長	鈴木 滋	委員
(株) FM IS	仙座 夏子	委員
伊豆市長	菊地 豊	
副市長	本多 伸治	
総合政策部長	堀江 啓一	
総務部長	伊郷 伸之	
市民部長	梅原 敏男	
健康福祉部長	右原 千賀子	
産業部長	滝川 正樹	
建設部長	山田 博治	
建設部理事	白鳥 正彦	
教育部長	金刺 重哉	
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主幹	山口 吉久	事務局
総合戦略課 主査	杉山 暁彦	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局

【資 料】

- 次 第
- 委員名簿、席次表、検討会議設置要綱
- 資料1 伊豆市まち・ひと・しごと創生第2期人口ビジョン（概要版）「案」
- 資料2 伊豆市まち・ひと・しごと創生第2期人口ビジョン（案）
- 資料3 伊豆市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略（概要版）「案」
- 資料4 伊豆市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略（案）
- 資料5 第2期総合戦略に係る取組み状況について
- 第1回 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 会議録
- 第2回 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 会議録

## 1. 開 会

## 2. 議事

(1) まち・ひと・しごと人口ビジョン案について 【資料1・2】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

(委 員)

人口ビジョン本編の10ページ<目指すべき将来の方向性>の1つ目の説明文の最後、“まちなぎわいに向けた企業等を推進する”であると文意が繋がらないと思っていたところ、概要版には“まちなぎわいに向けた起業等を推進する”とあり、事業を起こす方の起業と理解し、意味が通りました。修正をお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。修正させていただきます。

(副会長)

他にいかがでしょうか。

特に無いようでしたら、こちらの案を第2期人口ビジョンとして承認いただけますでしょうか。

(一同)

<異議なしで、承認>

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略案について 【資料3・4・5】 に基づき、事務局より説明

≪ 質疑応答・意見交換 ≫

(委 員)

資料5の1ページの「ブランディングによる販売力強化ポイント」について、意見を述べたいと思います。基準値522万8千円に対して、5年後の最終年度の成果目標が700万円というのはあまりにも寂しいかなと思います。「ブランディング」における伊豆市のブランドというのは、この地域そのものが商品であるといつも私は感じています。それゆえ、大勢の観光客やここに住む人々も愛着を持てる地域がブランドとなり得る商品だと思いますので、この地域をより良い商品とするためには何をしたら良いのかを考える必要があると思います。それによって、観光業も発展するでしょうし、住む人も満足を得られるでしょう。そしてそういう地域だからこそ、外からも移住してみようという人が増えると思います。新たな商品づくりなども非常に重要なことだと思いますが、5年掛けて100万~200万しか伸ばせないというのは伊豆市の総合戦略に関わる取組みのテーマとして情けないと感じます。今年度のふるさと納税の納税額は、伊豆市からの提供いただいた数字に依ると、12月末時点で約5億8千何百万であると同っています。恐らく、その後の1月~3月で若干の上乗せがあり、6~7億に近づくのではないかと私は想像しています。そして、12月末時点のふるさと納税額のうち、95%が伊豆市内の各ホテルや旅館の宿泊だと同っています。それだけ多くの方が伊豆市に旅行に来ようという意欲を持ってくださり、12か月で7億円近くの寄付をしてくださっているということは大変ありがたいことです。これはまさに伊豆市のブランドとして、土肥・中伊豆・天城湯ヶ島・修善寺のそれぞれの地域のブランドに魅力があり、そこにある施設や自然環境が良いからだだと思いますので、そこに力を入れる必要があると思います。そういう中に商品づくりも含まれますが、先程の目標設定は、これが決して悪いという訳ではございませんが、伊豆市として掲げるには少し情けないかなと感じました。

それから、2ページ目の「人を呼び、魅力を売り込む 稼げる観光プロジェクト」も非常に重要なポイントであり、こういったことを一つ一つやっていかなければならないと思いますが、ふるさと納税やインバウンド等の誘客についても、私たち民間も含め、行政の皆さんと協働で進めていく必要があると思います。ふるさと納税でいえば、先行している他の自治体は何をやっているかなどをもっと勉強し、参考にする必要があると思います。お客さんをたくさん呼び込んでいる観光地や人口が増えている市町村は何をしているのかということを知ることが大切だと思います。行政の皆さんと一緒に民間も参加する勉強会のようなものを実施し、裏付けを作り、共に実感・体感し、実践していくという基本的なことからもう一度取り組んでいく必要があるのかなと感じました。

(副会長)

貴重なご意見ありがとうございます。事務局から返答をお願いいたします。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。まず1ページ目の目標値である700万円ですが、ご指摘のとおり、ごもっともな部分もあろうかと思いますが、最終的には、2ページ目の指標のとおり、全体としては、観光客1人当たりの消費額を何とか伸ばしていきたいと考えています。例えば1人あたりの消費額が1,000円増えると、300万人のお客様が来れば30億円増える計算となり、目指すところはそういうところになります。1ページ目の700万円というのは、今までの販売ルートとは別の新たなツールを設けながら、まずは新たなインターネット販売による取組みも始めたいということで、若干小さい数字となっています。もちろん、経年で評価をしていく際には、上方修正も検討してまいりたいと思います。

(委員)

力を注ぎ、お金をかけるべきところが若干ずれているのではないかという気がしました。

(副会長)

貴重なご意見ありがとうございます。この件については、また検討させていただきたいと思います。他にご意見やご質問等ありましたらお願いします。

(委員)

資料5の1ページ目の「人材育成・確保プロジェクト」に関して、私どもNPO法人も移住相談の際には市内のお客様からいただいた求人情報を紹介することもあるのですが、ひとり親と旅館業のマッチング支援について質問されることもあり、その点に関して非常に限界を感じています。というのも、特にひとり親で移住される方は、保育がない状態、夜間に子どもを預ける所もなく、近くに親戚もいない状態であり、それで旅館業に就職してくださいというのは、やはりハードルが高いです。もともとそういう経験がある方や興味がある方であっても、実状として夜間の仕事が出来ない方の旅館への就職は厳しいと思います。しかし、すぐに保育園を作ることは出来ませんし、夜間保育もそんなに簡単に認可が下りるものでもないと思います。そこで、現在、内閣府においてベビーシッターの補助事業を行っています。私の知人がキッズラインというベビーシッターの会社に勤めているのですが、現在、非常に利用者が増えているそうです。企業や組合が毎月申請をし、補助・認定を受けると、キッズラインや他の認定事業者に夜間のベビーシッターをお願いすることが可能となり、働く方たちの負担が非常に軽減されることから、昨今の利用が増えているようです。三島市でも、キッズラインが少しずつ増えているという話も聞きますので、伊豆市においても、民間のベビーシッターを活用した夜間保育を進め、就労者の負担を軽減していくことは不可能ではないと思います。移住相談を受けていて、「働きたいけど子どもはどうしたらいいの？現実的には無理なので諦めましょう」という場面は非常に辛いものがあるので、そういった部分は民間のサービスや政府の支援策などを積極的に活用し、若い世代・お子さんがいる世代の受け皿づくりも検討する必要があると思います。制度だけ作って促進しようとしても、受け入れる側の受け皿がなければ事業が上手く進まないのではないかと感じています。

(副会長)

ありがとうございます。事務局、よろしくお願いします。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。まさしく観光業の人材確保は非常に厳しい状況で、ひとり親のプロジェクトを始めた中でも就学前のお子様を持たれている方の場合には、保育が大きな課題です。移住相談の中でもお子様が小学校に上がられている場合は、もう少し柔軟な対応が出来るということですが、先程ご意見いただいた就学前のお子様に関しては、まさしく今後、検討していかなければならないと考えています。我々もひとり親のプロジェクトを始める際には、旅館組合と、まずは組合単位で保育の形が出来ないかを相談させていただきましたが、なかなかすぐには実現出来ないもので、先程のような受け皿づくりも検討する必要があります。

また、旅館では長時間勤務が多いですが、ひとり親の方を対象に、シフト制によって、もう少し働きやすい形態を検討していただいている旅館もあります。そういった事例も併せ、厳しいマッチングではありますが、進めていきたいと考えております。

健康福祉部長の右原です。先程ご意見いただきました件についてですが、休日・祝日保育は実施していますが、確かに夜間保育については、十分に実施している状態ではございません。今、考えられるのは、ファミリーサポートセンター事業の活用で、預けたい保護者様であるおねがい会員と、預かる・支援出来る方であるまかせて会員による援助の形式で、0歳から小学校6年生までの児童の保護者の方の活用が可能で、ただ、利用時間が朝7時から夜7時までと短くなっていますので、まずはこのあたりを見直すことによって、夜間預かれるような対応も出来るのではと考えますので、少しずつ改善を図っていきたいと思います。

(副会長)

ありがとうございます。他にご意見やご質問等いかがでしょうか？

(委員)

資料5の6ページ目「伊豆市の魅力を伝える“写真”になるまちプロジェクト」に関して、こちらの資料をいただいてから、いろいろと考えてみました。「市公式アカウントによる積極的な情報発信」についてですが、現在の伊豆市の SNS はオリンピックに関するものが多く、サムネイルも全部オリンピックの表示になっていますが、オリンピックが終わった瞬間に、この「伊豆市いいね」のハッシュタグを市民の方や観光客に促すようなPRが必要だと思います。市の発信する情報には全て「#伊豆市いいね」を付け、市内の各種イベントを「#伊豆市いいね」で投稿した方には何かプレゼントするなどといった取組みを進めていけば、目標値の延べ2,500件はすぐ達成出来る件数だと思いますし、2,500件よりも上の数字を目指しても良いのかなとも感じました。

また、美しい伊豆創造センターが行っていた「いいね伊豆」という投稿は、現在1万を超えています。伊豆半島の色々な方々が積極的に投稿してくださっています。先程、他の委員さんがおっしゃったように、本当に伊豆市の旧4町全ての地域に魅力的な場所がたくさんあると思いますので、大人だけでなく、現在スマホ世代の若い10代の子たちにも、こういった「#伊豆市いいね」を広める取組みが出来たら、もっと皆さんがSNSへのアップに協力してくれるのではないかと思います。

(副会長)

貴重なご意見をありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。今のようなご意見を参考に、新年度、すぐに取り組んでいきたいと思っています。この「#伊豆市いいね」でアップされた映像や記事を、後で出てきます関係人口の獲得にもつなげていきたいと考えていますので、積極的に進めてまいりたいと思います。

(副会長)

他に何かご意見やご質問等いかがでしょうか。

(委員)

資料5の5ページ目「ネットワーク強化プロジェクト」の「公共交通を利用しやすい環境づくり」は非常に大切なことだと思います。このプロジェクトで目標に挙げている 基準値 37回を40回という数値がどのくらいの意味の持つ数字なのかを正しく理解出来ていないかもしれませんが、私も今年70歳となり、5年後に免許証を更新出来るのかどうか、運転をやめた方が良いのかもしれない年齢かと思うと、こういった公共交通を利用するのかなと思う訳です。そうした時に、今のままの状況だけなのか、この域内を巡回するような何かしらの細かな公共交通手段が考えられないかと感じています。そうすると、私たち住民にも助かりますし、観光で来た方も気軽に乗れるという部分もあるのではないかと思います。ただ、今後5年間はかなり早いピッチで変化が起こることも想像され、この計画はおそらく現状ベースで類推し、事業を立てていると思いますが、自動運転といった世の中の変化や買い物難民を救済する公共交通手段についても、どのように考えたら良いかをもう少し勉強し、将来に備える必要があるかと思っています。今後の行政・民間共同の勉強会のテーマの1つにもなるかと思っています。

(副会長)

ありがとうございます。事務局よろしくお願ひします。

(事務局)

ありがとうございます。公共交通の環境としては、西伊豆方面への長距離路線などのバス事業者が独自に運行している黒字路線もありますが、実は大部分の路線を市が委託し、自主運行バスという形で通勤・通学の時間帯を中心とした路線を維持している状況でございます。人口減少の影響や自家用車からバスへの変換もなかなか難しく、年々利用者数は減少傾向にあります。今回は、その実数というよりも、1人あたりの利用回数に置き換え、利用者数を人口で割り返して計算しています。長谷川委員がおっしゃるとおり、現在、自動運転の実証実験など、目まぐるしく状況が変化していますので、その変動も捉えながら検討していきたいと思っております。

現在、市が取り組んでいることとして、日中はどうしてもバスの便数が少ないことから、予約型タクシーの実証運行を天城湯ヶ島と中伊豆地区において2年前から実施しています。ただ、現状は80歳を過ぎても軽トラックを運転される方が、その利便性から離れられず、予約して安価でタクシーを使えるところに切り替わっていない状況があります。そうなってきますと、公共交通というよりも、もう少し次のステップに踏み込んで、買い物難民をどうするかといった新たな枠組みや最新の技術は、まさしくこれから検討していかなければならないことだと考えております。

(市長)

先程のご指摘はとても重要な視点で、今、事務局から説明したように、公共交通会議を開催し、議論を行っていますが、そろそろ公共交通会議から別の次元に移行しなければならないと感じています。本日欠席の商工会長さんもおっしゃっていましたが、どこかに軽トラやシニアカーの駐車場を整備し、そこからバスに乗ってもらうのはいかがでしょうかと言っても、玄関先からでないは無理だと言われてしまう訳です。バス停まで歩けない、カドイケで買ったらバス停から家まで届けることが必要となると、もうこれは公共交通会議ではなく、福祉事業にしなければいけないですね。どのように高齢者の買物を支援するかということになり、別の事業として考えなければいけません。私はなるべくバスを使うようにしており、先般も市役所でバスに乗り、街の外れにある洒落たカフェで降り、もう1回そこからバスに乗って帰ったのですが、暗くてものすごく危ない。そうすると、バスに乗ってもらうためには、そこの歩行空間も安全にしなければいけない。それをハードかソフトでやるかということを考えていると、これまた偶然に、別件で吉祥寺に行った際に、駅の南側に一方通行の狭い道路、伊豆市で例えると修善寺駅の南側のような狭い道路にバスが続々と入ってくる光景を見た訳です。バスが来ない時には歩行者天国のように道路は歩行者で埋まっていて、バスが入る時には歩行者がどいており、もう完全にソフトの世界でした。公共交通というのは、まさにまちづくりそのものだと思っていて、ご指摘のあったように、これを1つの切り口として、また別の検討会議を住民や専門家の皆さんを交えて開催する必要性を痛感したところではあります。それは、また追って検討させていただきます。

(副会長)

ありがとうございます。皆さん、他にご意見やご質問等いかがでしょうか。

(委員)

資料5の最後のページの移住・定住についてですが、最近、西伊豆に YouTuber さんがいらっしゃることを皆さんご存知でしょうか。「古民家ひとり暮らしさん」というアカウント名の方で、脱サラして西伊豆町にお住まいで、パソコンでリモートワークされており、フォロワー数94.6万人の方です。この方は伊豆半島の色々なところも回っていて、修善寺と土肥の動画をアップしたところ、先週アップしたばかりなのに、修善寺は15万回、土肥は7.8万回も再生されています。これからは5G世となり、Vlog という新たな形で、VTR・動画でブログをアップされている方が多く、有名人でもローラさんなどが朝起きてから仕事に行くまでのルーティンを全て映像化して動画をアップしています。今は、YouTube 動画を個人個人が発信している時代となり、この古民家ひとり暮らしさんも、朝や夜のルーティンなどの自分の田舎暮らしの生活ぶりを、顔は出さずに10分程度の動画でアップされています。これを伊豆市の移住・定住のヒントとして、現在、土肥のお試し住宅に何日間か滞在出来ると思っておりますので、例えば、それを動画として撮影してもOKという方の1日の生活を発信してみるのも面白いのではないかと思います。

(副会長)

時代の流れを感じるような貴重なご意見をありがとうございます。皆さん、他にご意見いかがでしょうか。貴重な意見をいただきましたが、発言されていない皆様からも一言ずつで良いので、ご意見をいただけたらと思います。よろしくお願ひします。

(委員)

今回の資料の中で、高校生が関わるところについては「伊豆市愛を育む“大好き地域”実践プロジェクト」に含まれていると思います。そうした中で、本校は地域に根ざした学校を目指しております。先日も課題研究発表会には伊豆市の職員の方にも来ていただきました。伊豆市に関わるものについて、2年生・3年生の総合的な学習の時間の中で、子どもたち自身も問題意識を持ちながら取り組んでいるところです。やはりこれから生きていく地域を愛するという部分で、子どもたちの育成に非常に役に立つのかなと思っています。今回の様々なプロジェクトを見させていただき、非常に先進的な取り組み等もありますので、是非生徒にとっても意義が感じられるものにしていただけたらと思います。

(委員)

私自身もこの会議で初めて総合戦略の存在を知りましたが、近所の人たちに何か意見がないかを聞いて回りましたが、やはりこの検討会議を実施していること自体を知りませんでした。こういった良い戦略を進めているのだから、市民の皆さんにもっとアピールして欲しいと思います。

また、先日テレビで岡山県の西粟倉村という村域全体の95%を山が占め、過疎化が進む村において、間伐材や木を利用した事業の起業家を全国からネットで集め、廃校で色々なお店を作って成功している事例や余った間伐材もバイオマス電力に活用することにより、今まで赤字であったものが黒字となり、小さな村ながら活性化されているシーンを見ました。村のホームページを見てみると、やはりそこで起業した人たちの写真など積極的に出しており、伊豆市でも起業した人たちの日々の生活や活動している内容をアピール出来たら良いと感じました。

(委員)

前回の会議の際に、伊豆市は良いことやっているのにPRが不足しているという話がたくさん出ていました。私も改めてホームページを開いてみました。定住のことが話題になっていたのでも、定住のページを見てみると、実際の移住者の方の移住後の感想も掲載されていました。本日お見えの仙座委員も書いていらっしゃいましたし、瑞の里〇久旅館の若女将さんや前回出席して下さった浅田さんも載っていました。とてもわかりやすく、伝わりやすく、良いなと思いました。また、ご夫婦で移住されている方もいらっしゃるので、そういった方々の意見なども幅広く載せていくと、さらに参考になるのではと思いました。

それから、子育て動画も6本全て見ました。伊豆市の色々な場所が映っていて、とても楽しそうで、子育てのことをPRしながら、伊豆市の良さも出ていました。市長さんも出演されていましたね。あのような動画を広く、市民や市外の方、首都圏の方などが見てみたい・行ってみたいといった感じになるような配信の仕方はまだまだこれからという印象です。さっきのYouTuberの話のように、広がりが見えてくると良いと思いました。様々な良い取り組みをしていただいているので、みんなが前向きに「伊豆市って良いな」と思えるまちにしていくためには、まずはやはり大人世代が伊豆市愛を持って、子どもたちにも伊豆市は良いところだよということを伝えていくことが大切だと思います。

子育て情報誌の「family izu」も第9号が発行され、早速、今朝ここに来る前にもらってきました。中身はこれから見るのですが、読むのをとてもワクワクしています。情報発信も少しずつ上手になってきているのかなと思いますが、ますます工夫されていくと良いと思います。

(委員)

伊豆市の人口減少を少しでも抑制するためにはどうしたら良いのかを私なりに考えました。子育て世代として私ができることとしたら、今住んでいる子どもたちに伊豆市のことを好きになってもらい、そのまま伊豆市に住んでもらうということなのかなと思いました。それでは、どうやって好きになってもらうのかを考えると、伊豆市に住んでいる時にたくさんの自然に触れたりイベントにも参加したり、良い思い出をいっぱい作ってあげたいと思います。

子育て動画についても、私の子どもの友だちも映っているのですが、そうすると、子どもたちも見たい見たいと言って見てみたり、他の周りの友だちたちも見てみようなどと言って見ていたりします。自分や友だちが映っていたら少し嬉しいところもありますので、出来ればたくさんの人たちにこの動画に参加してもらえれば、もっと見てもらう機会も増えると思いますし、この子育て動画も広がりを見せていくと思います。

あとは、様々な事業がある中で、少しでも子育て世代と一緒に参加出来るもの、例えば、地域づくり協議会の方たちとも、子どもたちと何か一緒に出来るものと一緒に参加させてもらえれば、それもまた1つの思い出となり、子どもたちが伊豆市のことを好きになってくれるのかなと思います。

(委員)

先程、ひとり親と旅館業の話の中で、中抜けをやめてシフト制にしようといった話もありましたが、ハローワーク等では働き方改革を進めています。それは、労働者がどうやって働くかという労働者側の働き方と思うかもしれませんが、実際は、言葉が悪いかもしれませんが、会社側の働き方改革と言いますか、もっと労働者を重視して言うのであれば、働いていただき方改革ということをやっていかなければいけないのかなと思っています。新聞などでも報道されていますが、修善寺の旅館でも中抜けを廃止するためには、フロントや配膳などといったマルチタスクの仕事をしてもらっているそうです。また、夜間保育もなかなか厳しいという話ですが、時代が変わることによって、そういった部分も改善されていくのではと思います。ますます伊豆市の再生に期待したいと思っております。

(委員)

外国人の労働者の受け入れと雇用に関する一連の法令につきましては、外国人労働者に係る雇用条件に課題もありますので、もっと具体的に稼働していくという段階となり、関係法令やそういった部分についてご相談等ございましたら、アドバイス等させていただきたいと思っております。

(委員)

本日が総合戦略策定のまとめということで、成果目標と数値目標が提示され、その数値の妥当性などについて、皆さんで検討いただいたところと認識しています。民間目線というか金融機関目線となり、どうしてもそういった数字が気になってしまいます。資料5の2ページ目、やはり観光が伊豆市の魅力であると思えますが、ここにある年間宿泊客数の基準値 81 万 3 千人を 5 年後に 83 万人にという目標ですが、5 年間で 2% 増程度であり、1 年間にすると 3,400 人増ということになります。民間に出来ないことが行政では出来るということもありますので、1 度目標を立てていただいたという中で、それは必達というような形で、市の幹部の皆さんのリーダーシップで、是非目標達成していただければと思います。

(委員)

ここ 30 年、仕事柄色々な地域を点々としており、それぞれの地域で経営者の方とお話させていただいています。当地でも経営者の方や市外から進出された方とお話させていただくことも多いのですが、その中で、これが伊豆市の特徴的なところなのかなあと思うところがあります。それは適当な土地が少ないという言葉をよく耳にすることです。この適当な土地というのは、まとまった土地や地形が良い土地、場合によっては、先程から話が出ています公共交通アクセスが良い土地など様々なパターンがありますが、こういった土地が意外と少ないよねという声を聞きます。そういった意味では、地域もしくは地区を開発していくということも 1 つ重要なテーマなのかなと感じています。もちろん簡単ではないことは十分承知はしていますが、今後の人口問題の改善に向け、中長期的には大事なテーマであると思っておりますので、その部分にも取り組んでいただけたらと思います。弊行としても、企業の誘致については、引き続き宣伝をしていきたいと思っております。お互いに切磋琢磨して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(副会長)

ありがとうございます。それぞれのお立場からたくさんの貴重なご意見をいただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。それでは、このあたりで意見交換を終了させていただきます。

ここで第 2 期の総合戦略案について、皆様からの承認をいただけましたらと思います。いかがでしょうか。

(一同)

<異議なしで、承認>

(副会長)

ありがとうございます。本日、皆様から第 2 期人口ビジョン案と第 2 期総合戦略案につきまして、ご承認いただきました。本日いただいたご意見等もありますので、会長・副会長・事務局等で、最終案を調整させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(一同)

<異議なしで、了承>

(副会長)

ありがとうございます。会長とともに、責任を持って最終調整させていただきたいと思います。

それでは、本日の議事は以上となります。不慣れな進行、申し訳ございませんでした。議事進行にご協力をいただき、ありがとうございました。それでは事務局に進行をお返しいたします。

(事務局)

植松副会長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、昨年8月から約半年間にわたり、種々ご審議をいただき、誠にありがとうございました。本日の会議が今年度最後となりますので、ここで市長よりお礼のご挨拶を申し上げます。

(市長)

どうもありがとうございました。今回、議長を務めていただきました副会長の植松さんから、最後にご了承いただいたとおり、本日皆さんからいただいたご意見をもう1度整理させていただき、会長・副会長・事務局で、最終的な調整をさせていただきたいと思います。この地方創生総合戦略の上位計画である第2次伊豆市総合計画の前期5年間で来年度で終了します。かなり個性のある戦略的で尖がった計画にしたつもりです。自然・歴史・文化が香る伊豆の新基軸、新基軸はクロスロード。つまり、伊豆縦貫道というのは100年に1回あるかないかのとても大きな事業で、修善寺温泉から1分で行ける修善寺インター、伊東との接続となる大平インター、そして、西伊豆との接続となる月ヶ瀬インターがあり、第2次伊豆市総合計画の期間内では、伊豆縦貫道は全て開通出来ませんので、月ヶ瀬インターが下田方向と西伊豆方向とのクロスロードとなる訳です。そういった立ち位置で、伊豆市をより良くしようというのが、総合計画の一番大きなコンセプトであり、その中に伊豆市の形と色と力というものをイメージさせて作っています。コンパクトタウンやコンパクトネットワークというのが市の形であり、力はもちろん、市民の皆さんも含めた全ての力という意味ですが、そこに色というものも加えました。私たちは一体どういう伊豆市にいるのだろう。それを、風情と風格を携えた国際文化環境都市と位置づけました。つまり、ただの多く人が来て、安いお店でいっぱい雑貨を買っているというまちではなく、風情と風格に満ちた質の高い国際的な観光地、その観光地の背景には何があるかという文化と環境というところ。それは、修善寺のお寺や様々な文化財、湯ヶ島の文学の郷、わさび田のわさびもあり、そういった文化と環境が何を意味するかと言えば、当然、自然と温泉な訳です。そういうものを総合計画に位置づけ、かなり尖がらせたつもりですが、この地方創生総合戦略は、その中の政府が一番気にしている人口維持というところに絞ったアクションプランになっている訳です。国の地方創生事業も初代の石破大臣からものすごく色が変わってしまい、内閣府による事業の進捗管理も厳しいものがあるため、かなり現実的な数値目標値になってしまっている部分もあります。もう少し野心的でも良いだろうというご意見もそのとおりだと思いますので、全部上方修正していければ良いなと思っています。皆さんのご意見をいただきながら、全体として、観光事業者だけでなく、子育て世代からお年寄りまで、すべてにケアの行き届いた網羅的で総合的な計画になっていると思いますので、伊豆市がいつも弱いと言われている情報発信についても、これからも頑張らせていただきたいと思います。

今朝、報道番組を見ていたら、静岡市玉川地区の話題が出ていました。なぜ玉川が気になったかという、実は私の地元にある狩野城の狩野氏の後継がいっぱいいるところで、100世帯ぐらい狩野さんがいて、お墓も狩野だらけなのです。伊豆市内には狩野さんは1軒もないですが、その狩野氏だらけの町で、限界集落に1人の若い子育ての女性に移住し、最初は普通の仕事をしていたのが、それが林業に変わり、他の人々にもどんどん声を掛けて、頑張っている人たちがいる。したがって、ご意見もいただきましたように、移住してきた方々の苦労や体験談、伊豆市のここが良いところだという声も、もう少しネットワークづくりを事務局で進めさせていただきたいと思います。そして、伊豆市は83%が山であり、まさに玉川でも林業で頑張っていますが、財源として、今年は1,600万円、来年度は3,700万円、いずれは毎年度6,000万円ずつの森林環境税入ってくることになり、山で食べていけるようになる。そうなれば、伊豆市の林業従事者が100人もいる中で、きちんと結婚も子育ても出来るような産業としながら、防災にも役立つ産業となる訳ですね。去年の10月11日、この地域もぎりぎりまで雨が降りましたが、ほとんど木が流れない。山を整備することで安全な地域になることを考えると、山の整備や山を大切にすることや山の文化もやはり私たちの貴重な財産であり、狩野川も駿河湾もあるということになると、そういう総合的な計画になってくると痛感した次第です。今、とても貴重な財産である森林が追い風ですので、しっかりと私たちのふるさとを守るための総合的な政策が持てればと思います。長い挨拶となり、申し訳ございません。本日はどうもありがとうございました。



### 3. その他

(事務局)

皆様から本日いただいた貴重なご意見の反映につきましては、先程、副会長からもありましたとおり、会長と副会長との協議により、まとめさせていただきたいと考えております。委員の皆様には、格別のご協力を賜り、誠にありがとうございました。来年度から第2期総合戦略が始まりますので、4月からしっかりとスタート出来るように準備をしまいたいと考えております。皆様方には、今後ともご指導いただきますようによりしくお願いいたします。なお、計画書本編がまとまりましたら、皆様のお手元にお届けしたいと思っておりますので、またご覧いただければと思います。

以上をもちまして、伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議を終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

**【閉 会】**